

入選

森田 菜月 (もりた なつき) 浅川小 4年生

作品名:「ヘレン・ケラー」を読んで

図 書:ヘレン・ケラー

わたしは、ヘレン・ケラーのゆうきにとても感心しました。「どうかみなさん、目や耳の不自由なすべての子どもたちに、すくいの手をさしのべてください。」

という一言にわたしは感心しました。

なぜなら、わたしならそんなゆうきがないからです。意けんをもっていても、世界に発表するなんてとても出来ないからです。

ヘレン・ケラーは目も耳も不自由なのに手につづってもらっただけで、水や人形などの言葉を覚えられてすごいなと思いました。ふつうの人とちがうヘレン・ケラーは、五感のはたらきのうちの2つのはたらきを失ってしまっているのです。生活で使うすべての物の名前をのこっている3つの感かくを使って覚えなければいけないので、すごくがんばったと思います。もしも、わたしが目も耳も不自由だったなら、今みたいに外で自由に遊んだりできないし、毎日勉強ばかりで、とてもたえられないと思います。

ヘレン・ケラーとサリバン先生が出会えてよかったと思いました。ヘレン・ケラーがサリバン先生と出会うことによってヘレン・ケラーに一生をいっしょにあゆんでいく人ができたからです。ヘレン・ケラーにとってはとてもよいことだと思います。わたしも、友達にやさしくせっしてあげられるようになりたいです。そしていつか、いっしょうつきあえるような友達がほしいなと思いました。

わたしが朝学校に行くときに、目の不自由な人によくあいます。そのときに、いっしょに学校についてきてくれる、ボランティアの人がいます。ボランティアの人は、目の不自由な人が歩きやすいように、わたしたちをいつも道のはじによせます。いままでは何とも思っていなかったけれど、この本を読んで、目の不自由な人の気持ちがすこし、分かるようになりました。これからは、ボランティアさんにいわれなくても、自分から道のはじによろうと思います。そして、体の不自由な人を見かけたら、力になれるように心がけようと思います。